

地域ネットワークニュース

～平成28年4月の勉強会のお知らせ & 3月の勉強会報告～

第219回 地域ネットワーク勉強会

成人期の発達障害者の理解と支援

講師：茨城県発達障害者支援センター
野口雄樹氏（社会福祉士 精神保健福祉士）

4月26日(火)
午後7時～午後9時
神栖市保健・福祉会館内
参加費無料

発達障害のある人は、場の空気を読んでコミュニケーションをとったり、行動したりすることが苦手です。また、注意が散漫になりやすく、うっかりミスが多い場合もあります。そのため、就職してから対人関係が上手くいかなかったり、仕事のミスが続いたりすることに悩み、結果として離職を繰り返してしまうことや、二次的な症状として不安症状やうつ症状を発症してしまうこともあります。

一方で、その独特な感覚や感性を活かすことができれば他の人にはまねできないことができるなど、周囲の理解やサポートがあれば十分に社会に適応することが可能です。

今回の勉強会では成人期の発達障害に焦点をあて、就労や社会生活の場面で発達障害のある方が困っている背景とその支援のポイントについて、実際に発達障害者支援センターに寄せられる相談事例を基に説明していただきます。障害者就労支援事業所の担当者や各種相談支援機関の相談員など、発達障害者と関わる機会の多い支援者や障害者のご家族等、多くの方のご参加をお待ちしております。



※事前申し込みが必要です。別紙申込書もしくは電話にてお申し込み下さい。

申込・問い合わせ先：神栖市社協 地域福祉推進センター 担当：三浦 電話 0299-93-0294



第218回 地域ネットワーク勉強会報告 平成28年3月5日開催
<参加者101名>

見方を変えればうまくいく！

～「発達が気になる子」支援の鍵はリフレーミング～

講師：阿部利彦氏（星槎大学 共生科学部 准教授）

子どもが「やりたくない」「いやだ」「ぼくばっかり！」と拒否したり、反抗したりするのはなぜでしょう？

この子どもの表出を「わがまま」「拒否ばかり」などと一方的な視点だけで捉えず、見方を変えて＝リフレーミングして考えてみると、「反発してまで支援者と距離を取ろうとしている」

「自分が思うように出来ない（やり方が分からない）からやる気がおきない」「どうせ、僕の気持ちなんか分かってくれない」といった、子どもの思いが見えてきます。リフレーミングをすることで、子どもの本当の気持ちに気づくきっかけになります。

「発達が気になる子の多くは、支援を上手にうけることが出来ていない可能性があります。失敗経験より成功体験を多く積むことで、自己肯定感が育ち、できないことにチャレンジする気持ちが芽生えます。」と子ども目線で支援を考える大切さが伝えられました。